

SunSystems 管理会計事例

第1回 財務会計と管理会計の違い

一般的に財務会計とは、企業が貸借対照表・損益計算書などの財務諸表を作成し公表することで、企業の財政状態および経営成績を企業外部の株主・債権者・取引先・税務当局など、企業と関わりのある組織や人々、いわゆるステークホルダ(=利害関係者)に報告するための会計のことを指します。

このように、財務諸表は外部報告が主眼とされているため、会計基準や会計法規などの規則に準拠して作成され、制度会計（商法会計・証券取引法会計・税法会計）と呼んで区別することもあります。

では、管理会計とは何でしょう。財務会計が外部に向けた報告が主目的だったのに対し、管理会計とは企業内部の経営管理者が、現状を把握して改善活動を行う情報を得るために作成・報告する内部的な会計のことを指します。

そのため、管理会計では、財務会計上求められていない詳細な情報を把握し、分析することが通常行われています。その中には、設備投資の計画など、意思決定に役立つものと、期間利益計画・予算統制・標準原価計算・製品別売上高・限界利益など、業績の評価に役立つものが含まれます。つまり財務会計では過去が重視されるのに対して、管理会計では未来の計画（短期利益計画・長期利益計画）が重視されます。

このようにしてみると、管理会計と財務会計は、視点は異なりますが、それらを全く区別して会計処理するのではなく、通常の処理の中で、管理会計と財務会計とを混在させて運用するケースがほとんどです。

最近よく ERP パッケージや管理会計パッケージの広告で『経営者的な視点で・・・』という文言をよく見ますが、経理・会計担当者の方々も上記のような管理会計的な視点で現在の業務を見直してみると、自社の経営に対する方針や方向性が見えてきたり、新たな発見があるかもしれません。